陳情第３００５号
令和２年２月18日受理

（件　名）　新型コロナウィルスが1918年スペイン風邪を上回る被害を出す可能性があるため，その対策を求める陳情（２項）

（参　考）　１項は環境厚生委員会に付託（陳情第５００５号）

（陳情の要旨）
ＰＣＲ検査では50％程度，本来の陽性が陰性と出てしまうそうです。インフルエンザの迅速検査キットで２回陰性が出た場合は，新型コロナウィルスである可能性が高く，肺炎で既存の薬が効かない場合も新型コロナウィルスが原因と推定できます。ところが，こういった症例を収集して，新型コロナウィルスの感染状況を公表することが行われていません。

薬害エイズ問題では，米国で血液製剤からエイズ感染が起こることが明らかになった後も，米国から非加熱の血液製剤の輸入が続けられました。結果的に，本来は感染が防げた多くの一般市民がエイズにかかってしまいました。

エイズが流行した1980年代は主にアジア・アフリカで人口爆発が起こるとされていた時期であり，エイズ感染拡大により，人口爆発が予測されていた国々では反対に人口減少が起こりました。

現在，太陽系全体が銀河系の公転周期の中で，宇宙線の多い地域に入りつつあり，太陽では核融合反応の減少，地球では核分裂反応の増加と言う現象が起こっている可能性があります。太陽黒点数の減少が起こっていますが，黒点数減少期は地球に於いて気候寒冷化が起こったとされます。

地球では地球内部の岩石の熱対流が大きくなり，結果として地球表面を覆うプレートの運動が大きくなります。海のプレートの沈み込み運動が活発化し，海のプレートが深さ100キロ程度に沈み込むとマグマが発生するため，海溝部から熱が大量に海水へ供給され，それが海面温度を上げます。結果的に海面から水蒸気が大量に大気へ供給され，それが大雨や大嵐を招いているのです。更に，大気の湿度が高まり，海溝付近の地域では大気温も下がりにくくなるため，あたかも温暖化しているような印象を与えます。

大噴火によって一気に大気中の細かなチリ（エアロゾル）の増加が雲の発生を促し，結果的に日射が遮られて世界的に気温が急激に低下します。

311大地震の前回版である869年貞観地震の時代は，100年程度に渡り，富士山や浅間山，三宅島などが常時噴火していたと言う記録があり，また，その期間，大地震の頻度も現在の２倍以上でした。

寒冷化が始まると，食料や化石燃料の不足が地球的に起こります。エイズには，人口爆発に対する抑止と言った効果が出ましたが，現在は，新型コロナウィルスなどの新伝染病で人類による資源消費の抑制と言う効果が出る可能性があります。

人間活動による二酸化炭素ガスの増加による温暖化と言う議論は，プレート運動の活発化による大噴火や大地震の発生を無視させる効果があります。結果的に，寒冷化に伴う食料や化石燃料の不足に対する危機感を抑止することになります。

1918年から翌19年にかけて流行したスペイン風邪も太陽黒点の減少期のものでした。２回の大流行期があり，１回目の流行は軽微な症状が多く，２回目の大流行で多くの犠牲者が出ました。注目するべきは，伝染病の原因となる細菌やウィルスの発見が相次いだ1890年頃の時期の直後にスペイン風邪流行が起こったことです。

以上の趣旨により，下記のことを陳情します。

記

１．インフルエンザ迅速検査キットで２度の陰性が出たり，肺炎で既存薬が効かない症例を集計して公表すること。
２．今後，少なくとも数十年に渡り世界的に人の移動が減少することが予測できるため，観光産業に対して，業態転換を促すこと。